

HIとAI

La Lu

HIで夏の歌を書く
何気ない画像 余韻求めて

今日はいつもと違う
深掘りを求めてる
これまでのこと忘れ
違うものこさえて

裸足のままでポツンと立ってた
あたたかい土の上に

自分の姿を思い
なぞるように確かめながら
ここにいる感触を
自分の言葉で探す

ふた通りの プロセスにより
同じテーマ 溶け合わせてゆく

HIは心に残っていた一枚の
画像からつながる記憶の引き出し
AIが示すアルゴリズムとどこかで
ひとつの感覚で結ばれる

La Lu

HIは胸の奥に
眠る古い思いを揺らす

今日はいつもよりも
深掘りを求めて
これまで気づいてない
自分の心探して

セミの声が聞こえてくる
一瞬のいのち燃やす儚さと

自分の人生と長さが
違っているだけで
同じ運命を
たどってることを悟る

ふた通りの プロセスにより
同じテーマ 溶け合わせてゆく

HIはいのちのそのものの温度で
直感につながる言葉をつなぎ
AIが示すアルゴリズムとどこかで
ひとつの感覚で結ばれる

La Lu

AIで言葉与えて 夏のキーワード見つけてゆく中
出てきた言葉をヒントに 感情に結びつけてゆく

今日はいつもの
自分の好みの言葉を
これまでのデータで
思いがけない言葉で

白南風（しらはえ）のように形を持たぬまま世界をなぞり
草いきれの向こう 人の気配をそっと読み取っている

誰かの気配
背中に感じながらも
あたかも自分の
存在求めて

心に 残ってた
つながる 記憶の
AIが示すアルゴリズムとどこかで
ひとつの感覚で結ばれる

AIは風鈴の音のように透明な理（ことわり）を響かせ
どこからともなく魔法のように瞬間に言葉並べ

今日もいつもと
同じように答えて
これまでのデータに
ニュアンス合わせて

静かな野山に響き渡る見えない大きさのセミ達が
あたかも“ここにいる”という証をはっきりと示しながら

見えない気配
背中に感じながらも
言わずと知れた
運命を悟る

心に 直感で
つながる 言葉を
AIが示すアルゴリズムとどこかで
ひとつの感覚で結ばれる